

平成 27 年度東北地区国立大学法人等技術職員研修 参加報告

技術第 3 班 米澤 文吾

1. はじめに

本研修会では、国立大学法人等の研究・教育支援業務に携わる技術職員が、講義、技術発表、実技を通して、高度な専門知識及び技術の習得を目的としている。以下に 3 日間開催された研修会の概要を報告する。

2. 日程

開催時期：平成 27 年 9 月 16 日～9 月 18 日

主催：一般社団法人国立大学協会東北支部

会場：国立大学岩手大学

工学部復興銀河ホール 他

参加人数：35 人

【1 日目】

13:00～13:20 開講式

13:30～15:00 講義 1「岩手三陸における復興まちづくりの現状と課題」

15:30～17:00 講義 2「障害者差別解消法の施行とこれからの発達障害の支援」

【2 日目】

9:00～12:00 技術発表(口頭)

13:00～14:30 技術発表(口頭)

14:45～17:00 技術発表(ポスター)

【3 日目】(校外研修)

9:00～12:00 圃場管理のフィールド技術

13:00～16:00 産業動物フィールド技術

3. 研修内容等

【1 日目】講義 1 は、東日本大震災後における、復興に向けた計画や取り組みについての講演だった。今後の津波を想定した住宅地、商業地、娯楽施設などの土地利用区画や堤防の高さの設定など、自治体によって設計が異なっていた。被災地の方々の広範多岐に渡る要望を汲みながら、復興の立案、実践する難

しさや苦労話を知ることができた。

講義 2 は、大学における発達障害学生に対する対応の仕方や、苦労に関するスクールカウンセラーの方からの講演だった。コミュニケーションや社会性、想像力などの生まれつきもった障害は、基本的にはかわらないものの、実際には生育環境や教育によって社会性の向上は図れることを認識させられる内容であった。

【2 日目】口頭発表 12 件、ポスター発表 10 件であったが、研究発表、実験装置の製作、学生実験支援に関することが中心であった。高専の技術発表よりも、特殊性・専門性が高く、大型の装置や予算援助による内容が散見された。自身は「漂着ゴミに含まれた流木と学寮の食用廃油を利用したバイオディーゼル燃料の合成」の題目でポスターを行った。多数の方に興味を持って質問・意見を頂いただけでなく、他大学の技術職員が行っている研究や分析機器の操作・管理について、情報交換できたことが有意義であった。

【3 日目】天候に恵まれず、予定していた圃場や牧場を全て見学できなかったが、農業系技術職員数名が、各農場に専属で勤務しており、各人が各分野のエキスパートとして教員と協同で、農場の運営・管理を行っており、スケールの大きさを感じた。

4. 研修会に参加して

初めて本研修に参加させていただき、大勢の大学技術職員の方々と交流したが、大学においても年々業務範囲が増えていること、予算縮小による今後の運営・経営の在り方について、貴重な意見交換を行うことができた。自身の業務を省察し、今後の業務に活用していきたい。